

受理

7-3.19

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人健光園	理事長	古石 隆光	法人・事業所の特徴	・地域の資源として子どもからお年寄りまで世代を越えて交流できる場。 ・住み慣れたご自宅でお一人おひとりの状態に合わせて通い、泊まり、訪問を組み合わせることにより馴染みの職員、地域とともに安心ある生活を過ごして頂ける。				
事業所名	藤城の家	管理者	小川 友恵						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	0人	1人	1人	(1) 人	4人	人	11 (12) 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き、レクレーションやイベントなどの充実を図り、地域へ発信する機会を増やしていく。	個別の外出レクリエーションや、室内での楽しみの提供がより充実してきている。記録に落とし込む意識ももて始めている。	記録や入力、確認も大変だとは思うが、しっかり出来ていると思う。	更にレクリエーションやイベントに力を入れ、個別に対応出来る力も付けていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	定期的な換気や消毒の徹底、パーテーションの利用などの感染防止対策を継続していく。その中でも、居心地のよい空間づくりをしていく。	換気・消毒は継続して実行しており、パーテーションを活用しながらご利用者の人数、メンバーによるしつらえを工夫することが出来た。	まだまだ感染症が流行してるが、しっかり対策している。	定期的な換気やみなが触れる箇所の消毒の徹底、感染防止対策を継続していく。その中でも、居心地のよい空間づくりをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	徐々に再開している地域活動に、全職員が意識的に関わっていけるように参加をしていく。	シルバーの集いや、児童館との交流、特に幼児クラブとの交流が再開できたことは大きな前進と考えられる。	すこやか学級が藤城の家のよりみちで再開できて、みな、本当に喜んでいます。	個別の職員だけでなく、全職員が地域活動に参加し、意義を心に留めながらご利用者と関わるようにしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	藤城学区、桃山学区に続き藤森学区の勉強会を開催することにより、地域理解を深めていく。	藤城学区の勉強会を開催した。社会資源の種類や地域の特性を把握できた。数多くある公園の名前なども覚えていきたい。	少しづつ開かれた施設に戻りつつあるのではないか。	藤城学区、桃山学区に続き藤森学区や深草学区の勉強会を開催することにより、地域理解を深めていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の中で活動報告を継続する。まだ運営推進会議に出席したことがない職員が会議に出席できるようにしていく。	運営推進会議での活動報告は継続できている。ご家族も参加していただけたことは非常に大きな成果と考えられる。	事業所の取り組みが分かりやすく説明できている。	運営推進会議での活動報告を継続する。色々な職員が会議に出席でいるような人員体制になるようにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害に対して、研修や訓練を継続し、職員全員で備えを行っていく。他部署の備蓄場所も周知し、藤城の家全体での連携も図っていく。	研修、訓練は継続して行っている。他部署の備蓄場所も会議等で周知する事ができた。	藤城の家の消防訓練に地域の方々も参加できている。地域の訓練も参加する事が出来ている。	災害に対して、研修や訓練を継続し、職員全員が自分事のように捉えられるようにする。地域の防災訓練にも色々な職員が参加できる様にする。